



# 連合わかやま

日本労働組合総連合会  
和歌山県連合会  
〒640-8317  
和歌山市北出島1丁目5-46  
TEL (073) 436-0501  
FAX (073) 436-5226  
発行責任者 濱地 正由

連合和歌山に集う仲間の皆様、明けましておめでとうございます。ご家族共々つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中もコロナ禍における連合和歌山の運動や諸活動に対し、絶大なるご理解とご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。おかげさまで労働組合の真骨頂である「face-to-face」を取り戻しながら加盟産別はもとより、執行部、地域協議会、青年・女性委員会それぞれが緊密に連携しながらジェンダー平等の推進をはじめ、春季生活闘争への総力結集、政策制度や各級選挙における一体感、平和行動および各種街頭行動によるアピール、ボランティア活動による社会貢献など、多岐にわたる連合運動を展開することが出来ました。仲間の皆様には心から敬意を表する次第です。

さて、我々を取り巻く情勢については、海外における他国への侵攻や紛争の長期化に端を発したエネルギー・原材料価格の高騰が追い打ちをかけ、一層厳しい生活環境を余儀なくされています。特に和歌山県においては顕在化している人口減少ならびに少子高齢化、不安定な雇用や賃金水準の停滞、貧困・格差・差別等の人権侵害など、未だ解決への糸口がつかめない状況であります。

こうした中、労働組合のナショナルセンターである連合和歌山は、昨年にも増して課せられた役割と責任を果たさなければなりません。特に2024 春季生活闘争においては、加盟組織の労使交渉を後押しするとともに県や経済団体等との積極的な対話を通じて機運を高め、昨年を上回る賃上げを実現し、ひいては中小企業や小規模企業で働く方々の暮らしの底上げに資する取り組みを進めます。

また、社会貢献として県社会福祉協議会と締結している災害ボランティア活動の活性化や県赤十字血液センターと締結している献血特別支援の強化、さらには食品ロス問題への関わりや子ども食堂への支援など、連合和歌山として地域社会との共存共栄を図りながら経済・社会の好循環をめざす所存です。

本年の干支は「甲辰（きのえたつ）」であり、上昇し勢いを増しながらぐんぐんと成長していく年と言われております。昇り竜のごとく運気が昇って活気ある一年になることを願ってやみません。

どうか、連合和歌山に結集する3万人の組合員が一致団結して、すべての働く仲間が真の幸福を実感できる社会の構築をめざすべく、加盟組織・県市町村・各級議員とスクラムを組んで労働者の地位向上を実現して参りましょう。

皆様にとりまして幸多き一年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



連合和歌山会長  
山本 龍一

2024年1月 連合和歌山 会長 山本 龍一



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より連合運動へのご理解とご支援をいただき心より御礼申し上げます。

4年あまり続いたコロナ禍は徐々に治まり、5類感染症に移行して初めての新年を迎えました。コロナ禍の経験を通して、世の中は、たくさんの方々が支え合いながら成り立っていることや、危機に直面したときに必ずそれに立ち向かう方々がいることを、実感をもって再認識いたしました。「はたらくのそばで、ともに歩む」との連合の新しいキャッチコピーとともに、新たな気持ちで働く者に寄り添う連合としての挑戦をし続けて参ります。

昨年、30年ぶりの高水準で賃上げが実現しましたが、実質的にその効果が霞んでしまうほど、いまでも物価高が継続しています。持続的な賃上げが可能となるよう経済社会のステージ転換を図るためには、サプライチェーンにおける労務費を含む価格転嫁は必須です。そのためにも「価格転嫁、価格交渉、環境整備」を強く訴えて参りたいと思います。

また、ロシアによるウクライナ侵略はいまだに継続しています。中東では、パレスチナのガザ地区を実効支配するハマスとイスラエルとの戦闘が勃発し、1万人を超える市民が命を落としています。どちらの地域にも国際労働運動を通じて連帯する仲間が大勢います。「平和なくして労働運動なし」との信念は、70数年前の戦禍を経験した私たちが、常に労働運動の根幹に据えてきたゆるぎないものでしたが、時を越え、地域を越えて今もなお脅かされる脆さもあることを痛感しています。同じ空の下、戦火に不安を抱えながら命をつないでいる仲間の安全を祈りたいと思います。そして、改めて「平和なくして労働運動なし」との思いを強くしたいと思います。

今年は、連合における「ジェンダー平等推進計画フェーズ1」の最終年です。この計画は、連合本部、地方連合会、構成組織における女性役員の選出や意思決定機関への参加機会の確保、活動スタイルの点検や見直しなど、ジェンダー平等実現のための足元をしっかりと固める基礎的な目標を定めたものです。日本のジェンダーギャップ指数は、125位と低迷しています。世界はずっと前に進んでいるということにより一層自覚し、ジェンダー平等をめぐる社会の仕組みを変革していく努力をして参ります。

世界では、政労使の三者が対話を通じて社会課題を解決することがスタンダードとなっています。政府や使用者だけが社会をけん引するのではなく、生活者としての労働者、あるいは使用者の最も身近なステークホルダーとしての労働者である私たちが、政府や使用者とも対話を通じて、社会を構成する責務を果たして参りたいと思います。

ジェンダー平等や社会的な対話の促進は、あらゆる連合運動の基盤となる取り組みです。これまでの取り組みを踏まえながら、「働くことを軸とする安心社会 ーまもる・つなぐ・創り出すー」という連合ビジョンに加え、「はたらくのそばで、ともに歩む」のキャッチコピーとともに、多くの皆様のご期待に沿うことができるよう、スピード感を持ち、他人ごとではなく「ジブンゴト」として課題に向き合いながら努力して参ります。

本年が皆さまにとって実り多い一年となりますことを祈念いたします。



2024年1月 連合 会長 芳野 友子



連合会長  
芳野 友子